

‘89年(H・01)05月03日～05日

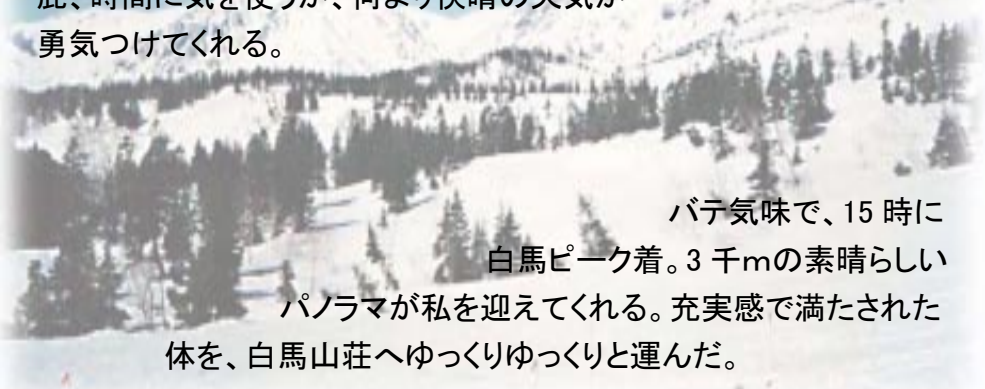
柵池～白馬乗鞍～白馬岳～杓子沢～猿倉

単独

山スキー

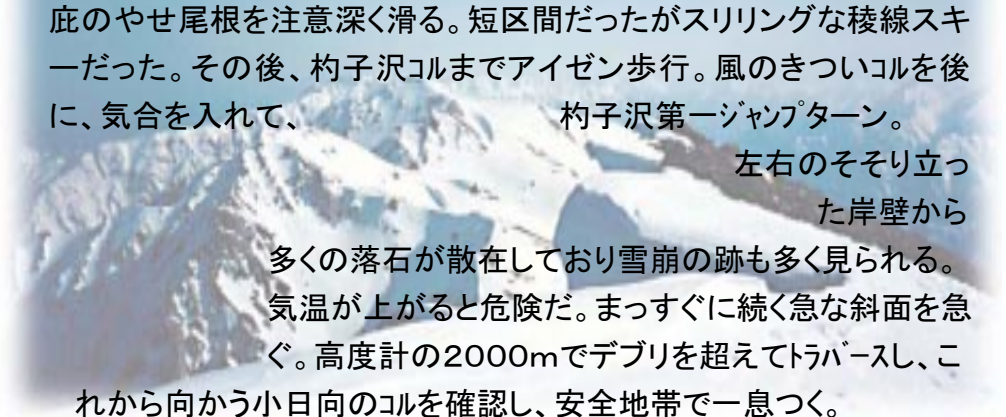
3日 行きの道中は大渋滞で猿倉まで12時間もかかってしまい柵池ヒュッテまで入る予定が、猿倉キャンプとなる。満天の星空のもと、明日の白馬に想いをよせ、シュラフにもぐる。

4日 タクシー、バス、7時20分のテレキャビンを利用し、入山。長いぼりのシール登行で白馬乗鞍へ。そして稜線歩きとなる。やせ尾根、雪庇、時間に気を使うが、何より快晴の天気が勇気つけてくれる。



バテ気味で、15時に白馬ピーク着。3kmの素晴らしいパノラマが私を迎えてくれる。充実感で満たされた体を、白馬山荘へゆっくりゆっくりと運んだ。

5日 あまり冷え込んでいない朝である。杓子沢のコルまでの稜線だけを考えると安全だ。しかし杓子沢を考えると落石・表層雪崩・下部のスキー操作が問題だ。早く出発した方が、ベターと判断し、早々と飯を食い、6時、スキーを履いて、ガチガチのアイスバーンを滑る。丸山は、東の急斜面を思い切ってトラバース。そして2700mの鞍部まで、雪庇のやせ尾根を注意深く滑る。短区間だったがスリリングな稜線スキーだった。その後、杓子沢コルまでアイゼン歩行。風のきついコルを後に、気合を入れて、杓子沢第一ジャンプターン。



左右のそそり立った岸壁から多くの落石が散在しており雪崩の跡も多く見られる。気温が上がると危険だ。まっすぐに続く急な斜面を急ぐ。高度計の2000mでデブリを超えてトラバースし、これから向かう小日向のコルを確認し、安全地帯で一息つく。



その後、緩斜面でのスキー操作で、小さな表層雪崩を起こし、遊び心で雪崩の上を滑る。小日向のコルまで来るとさすがにゴールが近い。緊張がほぐれ、充実感に包まれ、最後の猿倉へのダウンヒルを味わう。



'89年(H01) 05月28日	氷ノ山	佐久間・福積	登山	今シーズンの山スキーが、充実して無事に終え、雪が消えたふるさとの山へのんびりと遊ぶ。福積さんの山にかける情熱。そして佐久間さんの根っからの豊かな遊び心。
6月4日	今年初のオープンウォーターのスイム。泳いでいるとカヌーに乗った大塚賢一氏と出会う。カヌーには興味があったが、彼はこんなこともやっている。少し乗せてもらう。数年後この白浜の海で、毎日のようにエスキモーロールの練習をするようになるとは・・・。			
8月13～14日	白山	単独	登山	山スキーで気になる山だ。偵察がてら向かうが、雨とガス。甚の助でテント泊。翌日雨とガスの山頂。
<p>この夏もスイム・バイク・ラン、思い思いにやっている。</p> <p>バイクは室津から赤穂の方面が、海の景色がよくお気に入り。10月のバイクセンチュリーランでは、峰山の峠を超えた下りのカーブで、タイヤがはずれ転倒し、ずるむけの血まみれ。狂った自転車を直し、血まみれでゴールヘショートカット。</p> <p>ランは六甲山を駆け巡るのが気に入った。ランの大会では、神鍋が、思い出の山が眺められ好きだ。</p> <p>スイムはコースロープの無い海で自由に泳ぐがいい。そしてアサリを少し頂戴しよう。プールは飾磨のプールが、きれいで人も少なくいい。</p> <p>12月には現場のブランクとホノルルマラソンがかみ合ったのでエントリー。マラソンもよかったが、きれいな海で、さんご礁を見ながら、魚と泳いだのが印象的だった。</p>				
10月1日	氷ノ山	佐久間・福積	登山	モーニングラン10キロを楽しみ氷ノ山へ。澄み切った空に山々が、まぶしい。秋の自然を満喫する。夜はビスクで、福積氏の若かれし頃の思い出話に花が咲く。



‘90年1月1日	強い冬型の気圧配置で、強烈に寒い。真っ暗の夜明け前、バイクにて広峰登山口へ。それよりランで広峰山を登る。参拝の車や人で、街中と同じ。いやになってしまう。戸倉スキー場へゲレンデスキーに向かう。		
1月15日	蘇父下部	単独	登山 蘇父へ向かうべく、万場スキー場に來たが、リフト待ちに時間を取られ、又、山中のワカンラッセルが大変で、奥神鍋へ向かいゲレンデを遊ぶ。
1月27日	1週間のトンネルの講習に東京へ行く。それを利用し、川越の白鳥氏宅へお邪魔し、久しく酒を飲み昔を偲ぶ。		
3月10日	戸倉～氷ノ山	単独	山スキー 今年は暖冬で雪が少ない。しかし2日前の降雪で新しい雪が20cm近く付いている。やまめ茶屋からピッチを上げて4時間05分で氷ノ山山頂へ。雪質悪く、スキー操作にてこずる。この所ひぎの調子が悪く、今回の山スキーでも痛めている。
3月21日	氷ノ山	佐久間	山スキー 佐久間さんは登山で私はスキー。佐久間さんのザックの後ろにアサリがぶら下がってるのです。頂上であさりの吸い物にありつけそうです。晴天の中、楽しむ。

双六岳山スキー三昧 4月29日～5月3日 単独 **29日** 新穂高温泉に14時に到着し、わさび平まで行く予定が、雨のため、ここで車中泊とする。夕方雨もガスも上がり、山を見上げれば、1500mから上部は新しい雪が付き、真冬のような。明日は標高差、1450mの登行だ。荷物は、自炊の食料と酒で重い。気持ちがひきしまる。 **30日** スキーをザック固定でわさび平へ。ここから雪が付きスキーを引っ張る。やがて30～50cmの新雪となるが、20人程度の同行者があり、先行者のトレースに助かる。稜線は、青空に雪煙が舞っており、風がきつそう。稜線の手前2000mあたりから横殴りの風となりピッケル支持も強いられる。雪も飛ばされトレースも消える。厳しい登行の末、稜線に立つ。山かげを見 つけ完全武装になるが、時、遅かったのか、体は冷え切り、震えを起こし、足がけいれんし出した。つらい双六への行程となり
16時半、ようやくたどり着いた。なんと10時間半の長丁場だった。

1日 朝、風の音で目覚める。天気は良さそうだが、風が強そう。昨日の疲労がまだとれないのか、布団から出る気がしない。10時頃、風の収まりと同時に、体調も良くなり、双六ピークへ向かい丸山沢を滑り、もみ沢をシールで登り 小屋へ帰る。体調まだ完治していない。
2日 風強く様子見。風、収まったが出発遅れのため、今日もショートコースとして、 山頂から双六谷を滑る。小屋を経由し、次は、もみ沢岳へのんびりとピークハント。夜の小屋は色んな人と色んな話が出来、楽しい。 誰と話しても、自分の可能性を追っているようで驚くばかり。
3日 穏やかな快晴のもと、下山。回りを見回しても誰もいない。槍・穂を眺めながらの、弓折岳までの稜線歩きが、抜群に素晴らしい。何度も立ち止まりこの連峰と会話を。弓折からは、急な斜面の滑降となり、やがてデブリ帯となり、それを越えてフィニッシュとなる。



けっしてビッグコースをこなした訳では無いのに、素晴らしい充実感に包まれる。遭難につながるような大きな反省点、槍・穂を眺めながらの雪上漫歩……。色々教えられるものがあった。この雪の峰峰から、教わるものがまだまだあるように感じた。まさに雪の山は道場の如し。

'90年5月27日	氷ノ山	佐久間	登山	好天にして、澄み切った山並を楽しむ。帰って広峰へバイク。完全左側通行で登る。初めての事。
-----------	-----	-----	----	--



乗鞍岳へ
6月 6日~8日



'90年(H02年) 6月6日~8日 乗鞍岳 単独 山スキー	5月のゴールデンウィークが終わった10日頃、乗鞍スカイラインが開通し2750mまで車であがれるようになる。3026mの山頂まで300m足らずだ。こうなると、山スキーというより、残雪スキーの感じだ。まして6月となるとなおさらだ。その様に割り切れれば結構ビープル的に遊べて楽しい。スキーはこの時期でも山頂直下50mから、2400mまで、標高差600mは滑れる。登り返しはTシャツで好きなようにコース取り出来る。いくつもの山がポコポコ有るので、勝手気ままにピークハント。夜は車の近くでテントを張って、満天の星空に、お月さんも鮮やかだ。夜空に、乗鞍の白き峰々が、浮き上がり、雷鳥のゲロゲロの泣き声が響き渡り、酒をいっそう美味しくする。帰りは、平湯温泉でお気に入りの神の湯に入ってフィニッシュ。
--	--



6月12日	市川河川敷をランしてる時、トライアルの練習中の大塚賢一氏と出会いダベル。街でよく出会う、ちょっと気になる存在の人だ。		
6月13日	仕事を早めに切り上げ、今年の海の初泳ぎに白浜へ。ついでにあさりも少々。		
6月23日	氷ノ山	佐久間・伊藤	登山 山スキーシーズンを終えるといつも氷ノ山へ行きたくなる。シーズンの無事のお礼参り？そんな時、いつも佐久間さんや福積さんに声をかけている……。
7月22日	氷ノ山	佐久間	登山 共によいお天気だった。登山のスタートとゴールを離しても少々は平気だ。ザックにジョグシューズを忍ばせ、ランで車のデポ地までランする。山中のランは実にいい。すぐ横に溪流があれば、ザブんだ。

スイム・中地と飾磨のプールが主。夏は白浜のオープンウォーター。バイク・広峰を主とし、遠乗りは、峰山始め、小豆島へよく行っている。
 ラン・お城・市川を主とし、遠出は広峰。仕事・この夏は暇で仕事にあたらず、よく遊ばしてもらった。

°90年(H・2年) 7月28日～8月 31日	中央アル プス	単独	登山	<p>28日 木曾谷側からの中央アルプスは、アプローチが長い。山ふところ深い、木曾谷の長い森林帯を抜けるのが、視界も得られずつらい登りだ。上松から登り5合目の無人小屋で泊。暗くうっとうしいやなところ。後悔すれど、どうにもならず。</p> <p>29日 早々と出発。やがて樹林帯を抜け、気持ちも晴れ々、突然の御岳の雄姿に驚き、雪の御岳を想像する。進むにつれ、素晴らしい稜線歩きとなり、木曾駒直下の小さな山小屋を通過。後にこの小屋が、私に深い安らぎを与えてくれる、心の小屋になろうとは……。にぎやかな木曾駒ヶ岳を後に宝剣岳へ。ここも人が多く、早々と先を急ぐ。宝剣からは、人が全く居ず、静かな稜線を楽しむ。檜尾岳直下でテント。</p> <p>30日 今日も晴天。快適に稜線を行くが水の不足に参る。木曾殿小屋からの空木岳は、大きくて登る意欲を無くし、木曾側へ下る。JRの駅までの長い下りだった。JR・タクシーを利用し、車デポ地へ。そこでキャンプ。</p> <p>31日 朝早く出発し、妻籠・馬籠宿に立ち寄る。妻籠は朝6時頃につき、実に静かな観光をさせてもらった。</p>
-------------------------------	------------	----	----	---



10月 神戸市の仕事で、木見川改修工事と三木バイパス新設工事の合体の現場が始まる。宿舎もかまへ、泊まりこみの作業所とする。計画・工程・下請けのトラブル・原価、つらいことの多い試練の現場だった。

10月28日	氷ノ山	福積・佐久間	登山	仕事の重圧を忘れる。
--------	-----	--------	----	------------